

認定看護師ニュースレター第59報



認定看護管理者の横山 藤美です。

6月8日に「日本看護協会通常総会」が千葉県の幕張メッセで開催されました。長崎県看護協会職能理事および代議員として、本来であれば参加したいところですが新型コロナウイルス感染予防のため参加は断念しました。本会の最後に日本看護協会会長の福井会長は「看護への期待に応え、

その役割を果たすため、看護の力を一層強化することが急がれる。人々のいのちと暮らしをまもるプロフェッショナルとしての自律と力を、看護に実装していこう」と会場に呼び掛けました。

翌日の9日に開催された「2022年度 全国看護師交流集会Ⅰ 病院領域」のライブ配信に参加しました。その中での学びを少し紹介します。

基調講演では、産業医科大学病院の医療情報部長の林田先生より「地域包括ケア推進につながる医療機関の病床・外来機能とは」とのテーマ

基調講演
地域包括ケア推進につながる医療機関の病床・外来機能とは
産業医科大学病院 医療情報部長 林田賢史

で、病床報告から地域医療構想、そして外来機能の報告制度についての話がありました。

シンポジウムでは「地域包括ケア推進に向けた各病床機能での看護 ～“その人らしい生活”を支えるために～」とのテーマで4つの機能（高度急性期・急性期・回復期・慢性期）の立場から現状と課題、取り組みの経過や評価、教育などについての話がありました。各地域においても多職種や看護管理者の協議する場が開催されており、各施設の機能を活かし、その期間を終了するだけでなく、症例紹介などで自施設の機能以外でできることの検討や他施設の機能を知ることも必要であることが述べられました。長崎県内でも認定看護管理者の集い（どんぐりの会）が発足し、毎回、看護管理者が看護について語り、新たな制度などの情報共有や協議する場がありますが、多職種での協議する場は少ないことを感じました。当院では多職種協働が早くより取り組まれ、互いの役割を知ること、連携することができていることも多くあると思います。

少し前になりますが、3月3日に出席した「全国看護師職能委員長会」では、熊本県より「3職能（保健師・助産師・看護師）の交流会の際に、行った看護、サービス提供が良かったのかの評価を行うために、パネラーに患者家族を招いて、携わった各機能の看護師とのディスカッションを行っている」との発表がされました。「その人らしさを守るため」にできることは多職種協働で、各機能の施設間の連携が必要であることを再確認しました。



今回看護師職能交流会に参加し、「決められた役割を各々が最大限に果たすとともに、個別ではなく一体となって複合的に対応する」との学びができました。

今後も、認定看護管理者として、柔軟にかつ冷静に、社会の動向を見ながら、法人・病院・看護部、地域住民の予防・医療・介護に携わりたいと思います。

作成・承認：横山 藤美